

- ① トヨは、数日間意識不明だった。
- ② 看病していたのは、エリスの母だった。
- ③ その間に、大臣が見舞いに来た。
- ④ 「余が彼に隠したる顛末」とは、意識不明になっていたことである。
- ⑤ 相沢は大臣に、病気のことと、トヨがエリスと別れていないことを報告した。
- ⑥ トヨの意識が回復した時、エリスは丸々と太り、精神的に死んでいた。
- ⑦ 「余が相沢に与へし約束」とは、エリスを相沢に譲るという約束である。
- ⑧ 「かのタベ大臣に聞こえ上げし一諾」とは、ロシア同行を承知したことである。
- ⑨ エリスは相沢から真実を聞き、初めてだまされたことに気づいて叫び、寝ている豊太郎につかみかかった。
- ⑩ 目を覚ましたエリスは暴れ回ったが、よだれかけを与えると、涙を流して泣いた。
- ⑪ 「過激なる心労」とは、流産したことである。
- ⑫ エリスの病気は、一種の精神病で、回復の見込みはなかった。
- ⑬ エリスは、ダルドルフの精神病院に入院した。
- ⑭ エリスは、時々「シャブをくれ、シャブをくれ」と言った。
- ⑮ 病気から回復したトヨは、エリスを抱いて何度も涙を流した。
- ⑯ トヨは、エリスの母に慰謝料を渡して帰国した。
- ⑰ トヨは大臣を恨んでいる。
- ⑱ ラストクエスチョン。この時、トヨは二十九才である。